

2023. 3. 27

ステンレス、アルミといった高い意匠性が求められる鋼板にとって、表面保護フィルムは不可欠な副資材。現在塩化ビニル製の商品が主流ながら、環境性の高い特性を有する「非塩ビ」製品の採用が広がりを見せるなど、業界を取り巻く状況は近年大きく変わってきている。こうした表面保護フィルム現状や将来展望を、フィルムの販売や加工を手掛ける城山の加藤隆介社長に聞いた。

(佐野 雄紀)

「表面保護フィルムのトレンドを伺いたい。」

「世界的な環境意識の高まりを受けて、鋼材の表面疵を防止するフィルムにも一段とリサイクル性やCO<sub>2</sub>削減が求められるようになった。使用後に廃棄を伴うという点もあり、より環境性能に優れた製品を導入しようという機運が徐々に高まっている。」

## 副資材にも迫る環境対応の波

# 薄板用表面保護フィルムの現状と将来像

### 販売・加工の城山 加藤隆介社長に聞く



「工場のポリエチレン製フィルムを共同開発した。すでに複数の流通加工業者に利用いただいている。」

と、CO<sub>2</sub>排出量は同じ面積り、両者で棲み分けをしなげればならない。加えて、保護フィルムは選定には四季を通じて品質確認などの工数がかなり、向け先によっては工程変更を行わなければならないなど、現場の負担が大きいのも現状がある。」

「静電気の発生が少ないため、ほこりやスパークを防ぎ、温度による伸縮が軽微で季節に関わらず貼り付け作業が容易、優れた耐候性を持つという優位性もありながら、市場への浸透度合いをどう見るか。」

「静電気の発生が少なかったり、現場の負担が大きいのも現状がある。」

「採用拡大実現に向けた足元の課題について。」

## 「ポリ製」普及に力 脱炭素化社会へ大きく貢献

「具体的な動向を。」

「かねて塩ビ製品を使用する需要家が多く、依然その流れは変わっていない。ただ塩ビは焼却時にダイオキシンが発生するため、2000年代初め頃から代替品導入を模索する機運が高まった。そんな中、大手軽庄品メーカーから非塩ビ製品の引き合いを受

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが

「現場で技術開発中なが